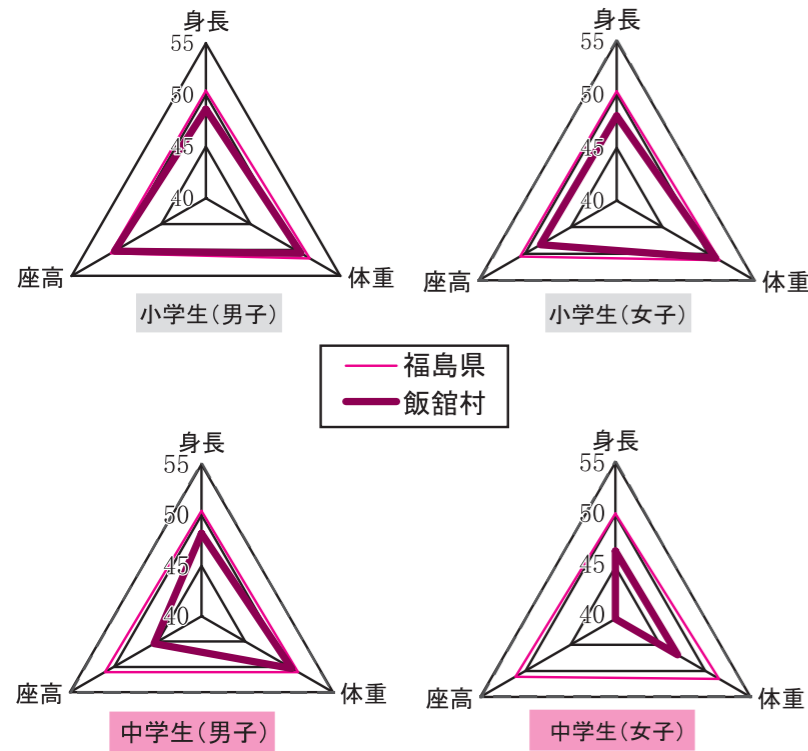


「全国体力・運動、運動習慣等調査」結果①

いいたてっ子の体格について



▲グラフ(体格調査T得点)(上段 小学5年生 下段 中学2年生) ※全国平均は全項目 50

平成 21 年度に行なわれた「全国体力・運動、運動習慣等調査」の結果が公表されました。

これは、小学校 5 年生と中学校 2 年生を対象とし、国が全国的な子どもたちの体力等の状況を把握・分析することにより、体力の向上にむけての課題、取組みを図るために実施したものです。

飯舘村の子どもたちの体格は、グラフのように全国平均値、県平均値と比べ、身長、座高とも低い結果となっています。

一方、体重は小学生男女ともに中～高程度の肥満傾向にあります。中学生になると、男子は全体の 15% が軽～中程度の肥満傾向、女子は、10% が軽～中程度の肥満傾向、4% が高度やせとなっています。

全体として、小学生から中～高度程度の肥満傾向にあることから、生活、運動習慣の改善への取組みが課題と言えます。



▲熱心に説明聞き入る参加者

参加者は、公民館に保管されている「行方郡御検地帳」などの文献を興味深げに手にとり、

講師に迎え、第 1 夜「あけぼのから江戸時代」をテーマに、村の最も古い時代と考えられている旧石器時代(約 1 万 3 0 0 0 年前)から中世の相馬氏と行方郡との関係、江戸時代(元禄 10 年・1 6 9 7 年)に設定された「山中郷」の支配下にあった当時の村のようすなどをスライドや文献を交えながら歴史を学びました。

今後、「いいたてふるさと塾」は 2 月末に講座「史跡から学ぶ村の足あと」、3 月中旬には村内の史跡を実際に巡る「村の史跡を見てみよう」が行なわれます。

タツプ! ほめる。シツカリしかる。

いいたてっ子 子育て構想

教育のページ

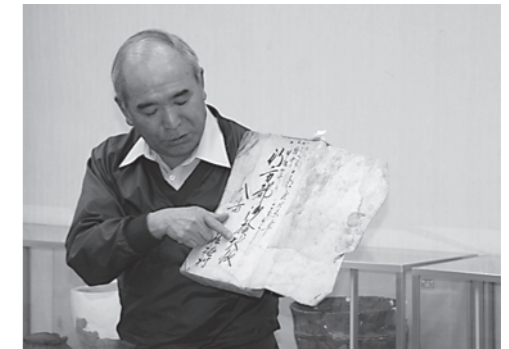
1/28 「いいたてふるさと塾」

古代ロマンに想いをはせて

いいたての歴史講座として、「いいたてふるさと塾」の開講式ならびに第 1 回目の講座が公民館で開かれ、25 人が参加しました。

講座は、村にある文化財や史跡、文献などを通して、村の宝である歴史を再発見してもらおうと飯舘村生涯学習課が主催したものです。

講座では、村の歴史に詳しい佐藤俊雄さん(草野)を講師に迎え、第 1 夜「あけぼのから江戸時代」をテーマに、村の最も古い時代と考えられている旧石器時代(約 1 万 3 0 0 0 年前)から中世の相馬氏と行方郡との関係、江戸時代(元禄 10 年・1 6 9 7 年)に設定された「山中郷」の支配下にあった当時の村のようすなどをスライドや文献を交えながら歴史を学びました。



▲古文書の内容を説明する佐藤さん

子育て相談室 — お気軽にご相談ください —

最近、小学校 1 年のとき、 $3 + 5 = 8$ という計算ができたのに、中学校 3 年では $(-3) + (-5) = -8$ の計算ができない生徒たちがいることを知りました。ちなみにこの生徒たちは知的障がい者ではありません。

どんなことでそうなったのか、本人に尋ね、数学の先生に質問し、私なりにもいろいろと考えてみました。生徒の一人「うーん(以後、無言)」、もう一人「やり方が分からない」、数学の先生「初めから計算する気がない」、私「困ったものだ。いつの頃から勉強をするという意志をなくしたのだろうか」。いずれも答えにならない答えです。

教育には、子どもが本来持つ「もっと知りたい」「もっと分かるようになってほしい」「もっとできるようになってほしい」という気持ちや意志をより高めることが課せられています。それが、いつの頃から、どんな理由が重なって、知らなくてもよい、分からなくてもよい、できなくてもよいとなったのか、残念至極です。

飯舘村の子どもたちが、年齢を経てもますます知的好奇心を旺盛にして真剣に学ぶ意志と態度を持って育つよう願っています。

飯舘中学校スクールカウンセラー
海野 和夫

○「教育相談」は、飯舘中学校(☎42-0008)へ電話でお申込みください。

飯舘村が選んだこの 1 冊

『手紙～親愛なる子供たちへ～』感想文コンテスト入賞作品紹介



最優秀賞

木戸 フミさん
(福島市・78 歳)

「年老いた私が、ある日」最初にこの言葉が飛び込んできました。ページをめくる毎に、短い言葉の中には、心の中を正直に凝縮して表現された母の心の優しさが、しみじみと伝わって来ました。

「悲しい事ではないんだ」この言葉が二度あって、一度目と二度目の心の思いに、少し違いがある様に感じられたのです。一度目の言葉は、母から子供達に少し甘えたい、と思った気持が、二度目の言葉は、ずっと幸せだった事を、表現してる様に思われました。

夜おそく静かな中で、此の手紙を自分の母から届いた手紙のように、何度も何度も読み返しました。

年老いた本当の自分を、隠すことなく伝える、母の祈りにも似た優しさ。文字は永遠に残る。深い詩とすべてが感動の手紙でした。